

2019.3.19
発行

No.
42

まひかの保育



発行者/愛媛県保育協議会
会長/合田 史宣
作成者/総務広報部会
編集責任者/宇都宮 恵子

発行所/愛媛県保育協議会
松山市持田町三丁目8番15号
愛媛県社会福祉協議会内



「子どもの未来を拓く、 保育という営み」

愛媛県保育協議会 会長 合田 史宣



保育という営みは毎日、毎日
続けられています。その中身
は一つとして同じものはありません。

成長した子どもたちは、やがて巣立っていき、私たちはまた新しい子どもたちを迎えます。一人として同じ子はおらず、それぞれに個性を持った一人の人間です。人間を育てるという行為は、数式を解くような明解さを持っていません。一つの働きかけが子どもにどのような影響を与えるか、集団がどのように変化するかは、判断がつきにくいものです。それにも関わらず、保育に携わる人は、子どもたちの未来を予想して、「こんな人間に育って欲しい」という願いを持ちながら、日々、保育を続けています。ここに保育に携わる人の素晴らしさと楽しさがあるのだらうと思います。

社会は、人間の予想しない方向へ変化することもあります。子どもたちが、未来を自分の力で生きていける力を育み、次のステップに送り出してあげるのが、私たちの役目だらうと思います。

皆様もご存知のとおり、今年度「保育所保育指針」等、私たちの保育の拠り所となる大切な指標が変わりました。子どもたちがどのように育って欲しいか、「子どもの未来の姿」を各施設で再認識する良い機会だと思えます。これからも、途切れることのない保育の営みが続いていくことを願っています。

平成30年度 私たちの取組み

本会では、1年間を通じ様々な研修会を実施しています。ここでは、各研修会の主な内容や参加された方の感想を掲載させていただきます。

保育士等キャリアアップ研修「④食育・アレルギー対応」

10月9日(火)～10日(水) ひめぎんホール

- 講義Ⅰ「子どもたちを輝かせる魔法の食育～人生を変える幸せの種まき～」
食文化・料理研究家/作曲家 代表 中村 和憲氏
- 講義Ⅱ『みんなで食べると楽しいね』子どもたちの健やかな育ちを目指して～
東温市立南吉井小学校 栄養教諭 坂田 香代子氏
- 発表・グループ討議「家庭や地域との連携による食育の推進」
発表者(新居浜市支部) 朝日保育園 調理員 十亀 弥由
(伊予郡支部) 砥部町子育て支援課 主任栄養士 松田 志穂
- 講義Ⅲ-①「保育所における食物アレルギー対応」
愛媛生協病院 小児科・アレルギー科 名倉院長 有田 孝司氏
- 講義Ⅲ-②「栄養素の基礎と食事提供 食物アレルギー対応」
別府大学 食物栄養科学部 教授 高松 伸枝氏
- 講義Ⅲ-③「アナフィラキシーショック(エピペンの使用方法を含む)の理解と対応」
愛媛生協病院 薬剤師 小児アレルギーエデューケーター 立川 登美子氏
- 講義Ⅳ・Ⅴ「何故口が開くのか?～子どもの口はふしぎがいっぱい～」①②
国立モンゴル医科大学 歯学部 客員教授/岡山大学病院スペシャルニーズ歯科センター 診療講師 岡崎 好秀氏

保育士等キャリアアップ研修「④食育・アレルギー対応」を受講して

(新居浜市)新田保育園 岡本 早苗

大人は、子どもたちに健康に育って欲しいという願いを持っています。そのためには、「家庭」「保育所・小学校」・「地域」が連携し、子どもたちの「生きていく力」を育んでいくことが大切になります。

園における食育の目指すものとして「お腹がすくリズムの持てる子ども」「食べたいもの・好きなものが増える子ども」「一緒に食べたい人がいる子ども」「食事作り・準備に関わる子ども」「食べ物を話題にする子ども」を育むことを大切に取組んでいくことを学びました。そこで大切なことは、子どもの健康を願う人たちが繋がって、子どもたちを中心に楽しみながら一つの方向に進んでいくことです。食育をイベント化するのではなく、生活に根付いたものとして、子どもに寄り添いながら「食」に興味を持つきっかけを作れるように、楽しく関わっていききたいと思います。

また、噛むことはとても重要で、たくさん噛むことで舌の筋肉がついて大きくなり、舌が顎の

骨を広げて、大きく丈夫な顎を作るそうです。そして、唾液もたくさん出て、虫歯菌から歯を守ったり、体を病気から守ってくれるということを学びました。私たちも子どもたちと一緒にご飯を食べる中で、よく噛める食材の固さや大きさを知り、楽しく食事をしながら噛むことの大切さを伝えていきたいと思えます。これからも、子どもたちを中心に、保育士・保護者・地域の人たちと繋がりが合いながら「食」の楽しさを一緒に味わい、「生きる力」が育つよう、丁寧に子どもたちを見守っていききたいと思います。

保育士等キャリアアップ研修「⑤保健衛生・安全対策」

11月5日(月)～6日(火) ひめぎんホール

- 講義Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ「愛の子育て・愛の保育～愛されて育つ子どもたち～」①②③
松山東雲女子大学 心理こども学科 准教授 出原 大氏
- 講義Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ「子どもを預る施設の深刻事故予防」
～保育も安全も「声を出すこと」から～①②③

保育の安全研究・教育センター 代表理事・心理学博士 掛札 逸美氏

保育士等キャリアアップ研修「⑤保健衛生・安全対策」を受講して

(今治市)口高保育所 羽藤 咲耶

今回受講して、保育現場での安全対策・衛生について、より具体的に考えることができました。特に、安全対策とコミュニケーションの関係性について、職員間で情報を共有し合うのはもちろん、上から下へ、下から上へ声を掛け合うことで、職員全員の意識統一を図ることも繋がります。安全対策の面でも非常に重要であることを知りました。

そして、県内様々な保育現場での実際に起こった事例など、貴重なお話を聞くことができ、万が一のことを想定し、その時、自分はそのような行動をとるべきか、考えるきっかけにもなりました。今回学んだことを生かして、子どもたちにとって最良の保育を目指していきなう努めていきたいと感じました。



＜受講者の声＞

- 保育する中で、一番大切な事は「愛」だと教わりました。
- 親として、家族として、保育士として、子どもたちに愛をもってありのままを受け止めているか…常に考えながら保育していきたいと思えます。

保育士等キャリアアップ研修「⑥保護者支援・子育て支援」

12月18日(火)～19日(水) ひめぎんホール

- 講義Ⅰ「こぼの育ち こぼの育ち」
愛媛大学 教育学部 特命教授 三浦 和尚氏
- 講義Ⅱ「地域共生社会における子育て支援」
聖カタリナ大学 人間健康福祉学部 学部長・教授 恒吉 和徳氏

○発表・グループ討議「地域の子育て家庭への支援の充実にむけて」

発表者(松山市支部) 桑原保育園

園長 田中 君子

○講義Ⅲ「N・V子育て支援はどこにあるべきか」

(南宇和郡支部) はまゆう乳幼児保育所 主任保育士 中川 智子

園長 田中 君子

保育士等キャリアアップ研修⑥保護者支援・子育て支援を受講して

(西予市)野村保育所 高月 彩

研修で最も印象に残っているのは「保育を充実させることが子育て支援につながる」という三浦先生の言葉です。親の願いは子どもが保育所生活が充実したものであること、子どもが笑顔で楽しそうに保育所に通う姿を見て、親は安心して仕事に行けるのだということ。先生は体験を通して学びました。また、「幼児期の大切さ」という項目においては、「最近の子どもは急がされて生きている」、「今日充実した時間を過ごせることが明日につながる」ということ、「子ども時代を、子どもとしてきちんと生きること」が大切だと学びました。「ことばとこころを育てる」という項目においては、様々な言葉を獲得していく幼児期に、「良い言葉のシャワーを浴びること」が大切であり、周りにいる大人や保育士が良い言葉を使うことが子どもを育てる上で重要だということでした。

1日の大半を保育所で過ごしている子どもたちは、「保育士の言葉のシャワー」を親よりもたくさん浴びていると考えられます。今後は、言葉の持つ意味を考えながら、わかりやすく話すよう心がけていきたいと思えます。私は、つい、子どもが要求する前に気持ちを察して言葉にしてしまう時があるので、子どもの言葉を先取りせず、終わるまで話させる、自分で決めさせることを常に頭に置いて、一人ひとりの子どもに関わっていききたいと思えます。また、保育者として子育て支援を考える際に大切なのは、自分の考えと育児をしている保護者の方とは、価値観が違つたということを前提にしたやり取りをしなければならぬということ、子育てに悩む親の立場になり、子育ての楽しさを伝え、共に喜び合うことが大切だということを学びました。子どもを育ちを一緒に楽しめる関係性が信頼関係を構築することにつながると信じて、日々の保育に取り組んでいきたいと思っています。



保育士等キャリアアップ研修⑦⑧マネジメント研修

1月21日(月)〜22日(火) 国際ホテル松山

○講義Ⅰ「リーダーシップ」

○講義Ⅱ「働きやすい環境づくり」

保育士「コミュニケーション研修 Uehana Relations 代表 松原 美里氏

○発表・グループ討議「保育者の資質向上を図る」

発表者(東温市・久万高原町支部) 南吉井第二保育所 主任保育士 大北 美奈子

(松山市支部)

潮見保育園 主任保育士 福田 智子

○講義Ⅲ「マネジメントの理解」

○講義Ⅳ「組織目標の設定」

○講義Ⅴ「人材育成」

東一の江幼稚園 園長/玉川大学 教育学部 乳幼児発達学科 准教授 田澤 里喜氏

保育士等キャリアアップ研修⑦⑧マネジメント研修を受講して

(松山市)余土保育園 泉 あゆ子

マネジメント研修に参加して、得るものが多くありました。特に、田澤先生の講義にあった、保育現場におけるマネジメントで大切なことは「本質理解に基づいた保育の実践を目指すこと」という言葉が印象に残りました。

幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことは、小学校以降の学習においても意欲的な姿勢として現れるとのことでした。田澤先生が紹介された、自園における保育活動はどれも子どもたちの能動型の姿が溢れており、子どもたちが始めた小さな遊びを大切にしている保育士の援助も適切で、とても素晴らしいと感じました。保育の質を向上させるためには、同僚である職員同士の対話ができる環境づくりが大切であり、自己研さんほもちろん、同時に、他園参観・見学や質の高い研修会への参加を通して得たものを、研修等を通して自園へ還元することが大切であることも学びました。

また、組織目標を設定する演習では、「保育ウエブ」をグループで作成しました。一人ひとりが保育の場面を書き加える作業でしたが、活動を見えやすくすることで、語りが生まれ、お互いの考えも見えやすくなること、次の保育に繋がっていくのだと感じました。子ども一人ひとりの主体性を大切に育むためにも、色々な議論が交わされる、そして上手く行かない時も認め合える職場環境作りにも、私も一役買いたいと感じた研修でした。

⑦⑧マネジメント研修で発表した経験を生かして

(東温市)南吉井第二保育所 大北 美奈子

私は、マネジメント研修で発表をさせていただきました。発表の準備を進める中で、自園における「保育者の資質向上」と「人材育成」について見つめ直す、良い機会となりました。保育や職場環境を見直していく中で、家庭と現場を繋ぐ役割のあるミドルリーダーの存在の大きさを実感することができ、改めて保育について何でも語り合える仲間がいることの大切さに気付くことができました。

そのような取り組みを踏まえて、本研修に参加し、一番印象深かった言葉は、「主体的に働く楽しさを感じた人が、子どもの主体性を育むことができる」というものでした。自園でも、子どもの主体性を育てる保育について、実践を通して子どもの姿から関わり方を見直してきましたが、まずは保育士が主体性をもって保育ができる、働きやすい職場環境作りが原点であることを学ぶことができました。このことから、まずは自ら率先して、「人と過去は変えられないが、自分と未来は変えられる」という、研修で学んだ言葉を心に置いて、肯定的な対話や同僚の気持ちの変化に気付き、声を掛けられる関係性作りを努めていきます。そして、今後も多様性を尊重し合える柔軟な組織作りの中で、保育の資質向上を図っていききたいと思います。



四国ブロック保育組織次世代リーダー研修会

2月6日(水) 愛媛県総合社会福祉会館

○講義 「子どもの心を育てる保育にはエピソード記述が欠かせない」

「子どもと保育者の接面では何が起っているか」

京都大学 名誉教授 鯨岡 峻氏

＜受講者の声＞

●子どもは本来、優しさを求めており、それに応えるのが養護である。「保育の現場はもっと生々しく、悩みや負の面がたくさんあるもので、いいことづくめの子どもはいない」、「様々な環境の子どもたちのエピソードの記録を振り返り、起こってしまったことの中から自分にとって印象深かったこと・心が揺さぶられたこと・ハッと思ったこと等を振り返っていくことが大事である」。子どもにとって私の心をわかってくれる、認めてくれる先生との間に信頼関係が生まれる」など、鯨岡先生の講義から、多くの言葉が印象に残りました。エピソード記述を真剣に考える必要性を感じるきっかけとなりました。

教育・保育施設長研修会

2月7日(木) ひめぎんホール

○講義Ⅰ 「東日本大震災を経験して伝えたい事〜大切な命を守るために〜」

防災教育の市民団体「ゆりあげかもめ」代表 佐竹 悦子氏

○講義Ⅱ 「保育行政の動向と保育施設に求められること」

大妻女子大学 教授 阿部 和子氏

＜受講者の声＞

【講義Ⅰ】

●マニュアル等の準備の大切さを再認識しました。現場に何が必要で、不要なのかを洗い出したいと思います。

●実際に災害に遭われた方の話だったので、わかりやすく心に響きました。「施設と子どもを守るためには、まず自分の命を守ること」。この言葉にはハッとさせられました。マニュアルの見直しを職員と話し合っていきたいと思えます。

●実験として語られるのですが、日々の保育の中で実行可能なことで、子どもたちの命を守るためにすぐにやるべきことがたくさんありました。「できるべきでない」ではなく、「やらなければならない」だと気づくことができました。

【講義Ⅱ】

●保育行政の動向と、施設が今、求められていること、そしてその理由が、整理できました。変わったこと、変わらないもの、これから変わっていくもの等、色々なことを考えながらも、常に子どもたちのことを中心に置いて考えていきたいと思います。

●指針が改定されても、まずはしっかりと子どもたちの心を受け止めるということが大切にしながら、保育を深めるための振り返りを積み重ねていきたいと思います。



●記憶は薄れてなくなるが、記録は残る。その通りだと思いました。
●「一人ひとり合わせてするのが養護」、「一人ひとり違うのが養護」、「集団で行うものではなく、人間存在そのものを尊厳する」、「その子がその子として受け止められることが大事」等、印象的な言葉をたくさんいただきました。

保育士等キャリアアップ研修⑦ 保育実践研修

2月26日(火)〜27日(水) ひめぎんホール

○講義Ⅰ 「体育遊びの必要性〜幼児期の体と運動の在り方〜」

太陽スポーツクラブ 指導部次長 上釜 峰雄氏
松山営業所長 窪田 雅樹氏

○講義Ⅱ 「新しい時代の保育内容表現を理解する〜ごっこ遊びから劇の発表会へ〜」

青山学院女子短期大学 子ども学科 助教 直井 玲子氏

○発表・グループ討議 「新たな時代の保育実践〜すべての子どもにもむけて〜」

発表者(西条市支部)飯岡保育園 主任保育士 横内 悦子
(松山市支部)立花こども園 副園長 角谷 真由子

○講義Ⅲ 「絵本は大切なこころの栄養です。〜遊びから学びへ…自然に育つ興味の手〜」

チャイルド本社 保育絵本研究室長 高崎 真氏

○講義Ⅳ 「どんな絵に見えますか〜様々な子ども達の作品について〜」

環太平洋大学短期大学部 人間発達学科 特任講師 吉井 ゆだね氏

○講義Ⅴ 「音楽療法と音あそび〜障がい児と健常児の垣根を越えて〜」

聖カタリナ大学短期大学部 保育学科 教授 藤井 澄子氏

保育士等キャリアアップ研修⑧ 保育実践研修を受講して

(西予市)野村保育所 楠 千夏

今回の研修で一番心に染みた言葉が、子どもたちが保育士に「絵本を読んで」と持っているのは、「先生一緒に遊ぼう」という意味が込められているというものでした。私はずっと「絵本読む」の言葉のまま受け取り、「読み聞かせ」をしていました。

高崎講師の話では、日本の保育士は絵本を読んでいる時に静かにさせたり、怒ったりすることが多いのですが、それは「読み聞かせ」になってしまっているからだと言われ、ハッとしました。絵本の字を「読み聞かせる」のではなく「子どもと一緒に絵を読み、楽しくコミュニケーションをとる」ということが大切だということを学びました。「読み聞かせ」ではなく「一緒に楽しむ」ことで絵本の好きな子を増やしていきたいと思います。



おすすめの本



子どもの育ちが見える「要録」作成のポイント



【著】
神長 美津子
阿部 和子
大方 美香
山下 文一
【発行】
中央法規出版

著者に厚生労働省・文部科学省の要録見直し検討委員会の構成を据え、単なる文集集ではなく、要録の目的を踏まえた作成・活用の方法を提案しています。新指針・要領の幼児期の終わりまでに育って欲しい姿にも対応済の1冊です。

おもいやりの絵本



【編・著】
WILLこども
知育研究所
【絵】
すみもと ななみ
【発行】
金の星社

お互いをおもいやれば、みんながうれしい気持ちになるよ！「おもいやりのある子に育てたい」という親の願いに答える絵本です。

もこもこもこ



【作】
谷川 俊太郎
【絵】
元永 定正
【発行】
文研出版

空と地面の絵。「しーん」地面の一部が盛り上がります。「もこもこ」「よき」ページをめくるごとに次々に起こる驚きの展開。「もこもこもこ」は生き物です。まったく不思議な絵本です。まずは手に取ってご覧ください。

平成30年度保育問題対応協力金 合計 **979,720円** ご協力ありがとうございました！

今年度、皆様にご協力いただきました「保育問題対応協力金」は、上記のとおりとなりました。

本協力金は、全国保育協議会へ送金し、保育制度の充実強化を目指すために活用させていただきます。

平成31年度 研修等日程のお知らせ

No.	名 称	期 日	会 場
1	教育・保育施設初級職員研修会	5/22(水)～23(木)	愛媛県総合社会福祉会館
2	保育関係者交流セミナー	6/8(土)	松山市総合コミュニティセンター
3	保育士等キャリアアップ研修「①乳児保育」	6/27(木)～28(金)	アイテムえひめ
4	四国ブロック保育研究大会(香川)	7/18(木)～19(金)	オークラホテル丸亀
5	第64回愛媛県保育事業研修大会	7/26(金)	松山市民会館
6	保育士等キャリアアップ研修「②幼児教育」	8/6(火)～7(水)	アイテムえひめ
7	保育士等キャリアアップ研修「③障がい児保育」	8/22(木)～23(金)	
8	保育士等キャリアアップ研修「④食育・アレルギー対応」	9/10(火)～11(水)	
9	保育士等キャリアアップ研修「⑤保健衛生・安全対策」	10/1(火)～2(水)	
10	保育士等キャリアアップ研修「⑥保護者支援・子育て支援」	11/25(月)～26(火)	愛媛県総合社会福祉会館
11	四国ブロック保育士会リーダーセミナー	12/16(月)	
12	教育・保育施設長研修会	12/17(火)	アイテムえひめ
13	保育士等キャリアアップ研修「⑦マネジメント研修」	1/28(火)～29(水)	
14	保育士等キャリアアップ研修「⑧保育実践研修」	2/12(水)～13(木)	
15	四国ブロック保育組織次世代リーダー研修会(香川)	2月	香川県

※上記の期日・会場等は、変更する場合があります。 ◎本会「ホームページ」で随時、情報発信を行っておりますので、ご確認ください。

【編集後記】

泣いている子がいる。涙は拭いてやる。泣いてはいけないという。なぜ泣くのと尋ねる。弱虫ねえという。ずいぶんいろいろなことは言いもし、してやりもするが、ただ一つしてやらないことがある。泣かずにいられない心もちへの共感である。お世話になる先生、お手数をかける先生、それは有難い先生である。しかし、有難い先生よりも、もっと欲しいのはうれしい先生である。そのうれしい先生はその時々的心もちに共感してくれる先生である。(倉橋惣三著 育ての心く廊下でより)

誰もがみんな、誰からも嬉しい人と思われようになつたらみんなが幸せな気分になりますよね。

昨年は豪雨災害や地震等、辛いことや悲しいことがたくさんありました。それでも人の優しさや温かさを、それ以上に感じられた年でした。これからも力強く、たくましく復興に向けて歩き続けていきたいと思えます。

本紙の発行に当たりまして、たくさんの皆様にご協力をいただき、誠にありがとうございました。今後も、魅力ある機関紙の発行に努力したいと思っておりますので、皆様のご協力をお願い申し上げます。

(総務広報部会一同)

災害特集(後編)

「あたりまえの日々に感謝！」

発災2日後に園舎に立ち入った時、どれくらいの水位だったのか、水の勢いや流れはどうだったのかは、天井近くの空調に引っかかった扉や玩具、浮き上がった床や家具、屋根の上に残った遊具の数々、20メートル流されて逆さになったプール、園舎のあちこちに引っかかった草木などから、当時の恐怖を改めて思い知らされました。発災当日の早朝に、保護者への休園の連絡と職員を招集しての避難準備、慌てながらも日頃から緊急に持ち出す物や緊急連絡の体制等、全職員が共通理解していたことが活かされました。それでも、ダム放流の1分前に命からがらの避難でした。

いつもと違った状況や警報が出た場合の、保育所としての対応のあり方、所長・リーダーが不在でも動ける危機管理の体制、地域・行政との連携等、もう1度見直す必要性を強く考えさせられました。もしもこの日、職員の1人でも命を落としたり、負傷していたらと思うと、身震いしました。持ち出すことも大事ですが、大切な職員の命を守ることも、管理者としての大きな使命です。被災後からは、園舎の片づけと並行して保育再開に向けて動きましたが、125名の子どもたちの保育ができる場所を探すのは大変なことでした。隣町の閉園した園舎の利用も考えましたが、そこも川の近くという事で不安の声もあり、断念しました。1週間後にライフラインが復旧し、地元複合施設の2階を借りて保育が再開できるようになったのは、発災から10日後でした。周辺には小学校・幼稚園・児童館・図書館があり、県内外、あらゆる方面からの支援や励まし、ボランティアの方々の訪問をいただいたおかげで、7月から12月末まで、約6か月間の代替保育所での生活は、あたりまえの日々に感謝できる、ありがたい生活を送ることができました。

現在は、高台にある運動公園の仮設保育所に移り、仮設住宅の住民の方々と交流を持ちながら、穏やかな日々を送っています。子ども



たちは落ち着きを取り戻し、笑顔で元気に過ごしています。被災の翌月からは、毎月1日を「防災の日」としています。その日は、子どもたち・職員とあらゆる災害に関わる話をすることにしました。合図のベルやサイレンの音が鳴ると、指示がなくても身をかがめたり、ダンゴ虫のポーズをとったり、職員の周りや出入口に集まったり、その時々に応じた行動ができるようにしていきたいと考えています。職員も訓練のたびに、避難経路や場所・段差部分の避難車を持ち上げる協力体制等について疑問や気づきを出し合い、マニュアルも確認し合っています。私たち職員が、子どもたちの命を守るのはもちろんのことです。しかし、まずは「自分の命は自分で守る」ということも、常に共有し合っています。このような災害が起こらないことを祈りますが、もしもは必ずあります。その時どう動くか…今回の貴重な体験を教訓に、行政・地域・家庭との連携をより深く、迅速に動ける体制を整えていきたいと強く思いました。

皆様のおかげで今があるということに日々感謝しています。ご支援をいただきました皆様に、厚く御礼申し上げます。

西予市 野村保育所 所長 宇都宮 恵子
(愛媛県保育協議会 副会長)



平成30年7月豪雨災害で被災した3市保育組織を訪問しました

平成31年3月4日(月)に、本会の合田会長・白川副会長・龍田副会長が、平成30年7月豪雨災害で甚大な被害を受けた3市を訪問し、皆様からいただいた「見舞金」を各保育組織会長に手渡しました。見舞金は、3市保育組織の復興・発展など、会員の皆様のために活用されます。

県下には、まだ十分な保育を行うことのできない施設が多数あります。本会では、会員の皆様や子どもたちが、1日でも早く日常の保育を取り戻せるよう、尽力して参りたいと思っております。皆様におかれましても、引き続きご支援いただきますよう、この場を借りてお願い申し上げます。

【お見舞いただいた皆様】(受付順/敬称略)

一般財団法人山口県保育協会、観音寺市保育ブロック会、全国保育士会、千株式会社、全国保育協議会(保育三団体被災地支援募金)、一般社団法人熊本市保育園連盟、愛媛県保育協議会会員



大洲市保育会



西予市保育協議会



宇和島市保育協議会